

二年生として新たな一步を踏み出す 倉高七十四期生へ

谷 崎 直 允

君たちが学校に顔を見せなくなり一か月が過ぎた。静かな倉高の敷地内にある桜は、少し寂しげに七分咲きといったところか・・・

思い起こせば一年前、まだあどけない面立ちと不安と緊張の面持ちで入学してきた君たちは、この一年間で心身ともにきっと成長したのだろうか。毎日会っていると気付かないその進化も、少しばかりの時の隔たりを経て、次に会う時には、未だ光くすぶる珠玉の原石として私たちの目に映るのであろう。

入学式後の挨拶で、「己の発言と行動が、自分と他者のこれからを生きやすくもし、生きにくくもする」と言った。世界は広い。人生は長い。その世界、人生には困難なこと、苦しいことは色々ある。程度の差こそあれ誰にでもある。自分だけではない。そんな時に、どう考えるか、どう処置するか、それによって幸・不幸、飛躍・後退が決まるといえる。困った、どうしよう、どうしようもない、と考え出せば、心が次第に狭くなり、せっかくの出る知恵も出なくなる。とどのつまり、原因も責任もすべて他者に転嫁して、不満で心が暗くなり、不平で我が身と他者を傷つける。断じて行えば、鬼神でもこれを避けるという。困難を困難とせず、思いを新たに決意固く歩めば、困難が却って飛躍の土台石となる。要は考え方と決意なのである。

人間の心は孫悟空の如意棒のごとき、まことに伸縮自在である。その自在な心で、困難な時にこそ、自らの夢を開拓する力強い道を歩んでゆく、そんな倉高七十四期生であれ。

災難や苦難は無いにこしたことはない。遭わずに済めば誠に結構。何にも無くて順調で、それで万事が好都合にゆけばよいが、そうばかりもゆかないのが、この世であり、人の歩みである。思わぬ時に思わぬ事が起こってくる。だから、苦難も現実として受け入れ、順調ならば更に良し、そんな思いで安易に流れず、凡に墮さず、何れの時にも心を定め、思いに溢れて、人一倍の知恵を絞り、人一倍の働きを積み重ねてゆく、そんな倉高七十四期生であれ。

昨日は昨日、今日は今日。昨日の苦勞を今日まで持ち越すことはない。「一日の苦勞は一日にて足れり」というように、今日はまた今日の運命が開ける。昨日の分まで背負ってはいられない。毎日が新しく、毎日が門出である。日々是新なれば、即ち日々是好日。素直で謙虚で、創意に富む、毎日が明るく、毎日が元気な倉高七十四期生であれ。

病でつらい思いをされている方々の一日も早い快方と、
世の安寧な日々の再来を切に祈りつつ・・・

再会まで暫しの辛抱ではあるけれど・・・

どうか、どうか七十四期生が息災でありますように・・・